

食べるところまで診る 訪問診療への取り組み

講師

かとう たけひこ

加藤 武彦 先生

加藤歯科医院(神奈川県)

全国訪問歯科研究会(加藤塾)主宰

ON LINE

TAKEHIKO KATO



おおたに まなぶ

大谷 学 先生

医療法人大谷歯科(大阪府東大阪市)
全国訪問歯科研究会(加藤塾)所属
加藤塾総義歯研究会会員



しもむら はやと

下村 隼人 先生

医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院(香川県)
全国訪問歯科研究会(加藤塾)所属
香川県立保健医療大学 非常勤講師
日本歯食嚥下リハビリテーション学会会員・認定士



セミナー
LIVE配信

4/17 日

時間 10:00~16:00

参加費 10,000円 定員 80名

抄録 加藤 武彦 先生

今、超高齢社会の到来を地域包括ケアという、新しい医療、看護、介護、福祉が一体となって、診療室に
来られなくなった患者さんへの対応が社会的に求められています。各歯科医師会にも、訪問診療連絡窓口を
おこなど、行政が歯科訪問診療をバックアップしているのが分かります。そこでこの3人で、訪問診療先にて、
いかに患者さんに喜んでもらえる訪問診療を行っているかをお話いたします。

抄録 大谷 学 先生

一般開業医で、自院を離れ何故訪問診療をするようになったのか?また訪問をしていく中での問題点
(身体調整・義歯管理など)、自院来院患者(フレイル状態)を地域包括・ケアマネへ繋げること、多職種連携
(特に歯科歯科連携)の難しさ、症例報告(在宅での義歯改造、施設での長期経過症例)、近年増加している
施設・在宅でのインプラント装着患者の義歯への移行などをお話させていただきます。

抄録 下村 隼人 先生

在宅診療において歯科が発揮できる力は「食べる機能を支え、生きる希望、生活を支えること」だと思
います。すなわち在宅歯科診療は「生活を支える医療」と言い換えることができます。知識や技術はもちろん
大切ですが私がこの仕事を行う上で一番大切に思っていることがあります。それは「心」です。生活を支える
医療を行うためには、医療人として人としての「心」がないとできないのではないのでしょうか。今の在宅
診療の現状を見渡してみると心をもってして在宅診療を行う医療者が求められていると感じます。今回の
セミナーでは実際の症例を通し私自身が壁を乗り越えるために習得した知識や技術ともに10年間加藤
イズムを追い求めてきた私なりの「心」をお伝えできればと思います。

WEBセミナー お申し込み ーご参加までの流れー

- ① メディナHPよりオンラインにてお申し込みください。
- ② 聴講にご使用されるPC等の機器にZOOMのアプリをダウンロードしてください。
- ③ 事前に招待メールをお送りいたしますので、そちらに記載されたID、パスワードにてログインしご参加ください(ご希望の方は事前に接続テストを行います)。

その他の詳細は、お申し込み確認後に
弊社よりメールにてお送りいたします。



お申し込みは
こちらまで

お申し込み先

<https://www.medina-group.jp>

技工所 メディナ

検索

